

耕種的防除を取り入れた、にら1年1作連続収穫作型の確立

要約

耕種的防除手法と遮熱資材や循環扇、ウォーターカーテン等を組み合わせることにより、収穫が8月下旬から可能となり、2月末までに5回収穫した。しかし、早期からの収穫による生育後半の草勢の維持が課題であり、検討が必要である。

○ 展示のねらい

単収向上を目的とした1年1作連続収穫作型の定着を図るためには、捨て刈りをせずに収穫回数を増やすとともに、株の消耗を軽減して生育を最適化させる栽培管理が求められる。このため、定植以降、赤色防虫ネット及び高畝マルチ栽培を取り入れ、収穫期の病害虫（アザミウマ類）や白絹病、雑草の影響を排除して、収穫期の前進を図る。

○ 主な成果

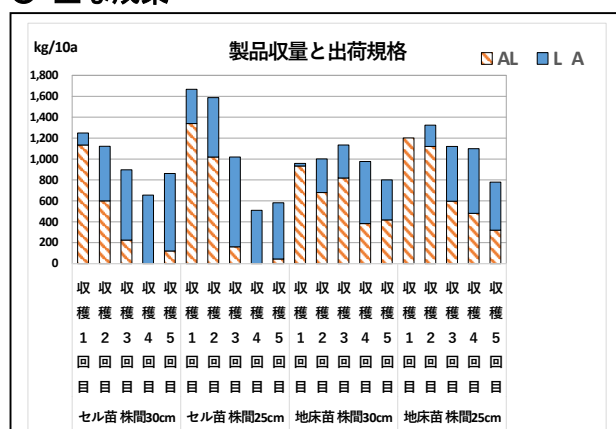


図1 製品収量と出荷規格

写真1 ハウス内の物理的防除の状況

6月7日に定植し、8月30日に1回目の収穫を行った。赤色防虫ネットの利用や収穫前の徹底防除により、収穫後ごとの薬剤使用を大幅に低減させながらアザミウマ類の被害を防ぐことができた。赤色防虫ネットは有効な資材であり、普及性は高いと考えられた。

2月末までに計5回収穫できたが、すべての区で収穫後半に品質低下が見られた(図1)。マルチ栽培では定植が浅植えになるため、地床苗に比べてセル苗では分けつが多くなった。株間25cm区では30cm区に比べて栽植間隔が狭まり、株ごとの受光体勢が劣り、根域が過密になることで、株同士の養水分の競合がおき、収穫後半の品質の落ち込みを招いたと考えられた。また、収穫による株疲れによって、この傾向が助長されたと考えられた。

○ 今後の方向性

収穫後半でも品質を落とさず連続収穫するための検討(例えば、収穫後の追肥量等の施肥設計)が必要である。1年1作の1つのモデル事例として、今後の検討材料とする。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：鹿沼市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315